

産業建設教育常任委員会 行政視察報告

産業建設教育常任委員会では、11月7日から9日にかけて行政視察を実施しましたので、その概要を報告いたします。

1日目は熊本県合志市の農商工連携事業を視察しました。

太陽光発電による収益を農業に活用し、「守りの農業」として農地の維持管理や、「攻めの農業」として新商品の開発などに取り組んでいました。また、地域コミュニティの中心となる人材を育成するなど、人材育成の積極的な取り組みを伺うことが出来ました。

2日目は福岡県福岡市の商店街支援施策を視察しました。

市内に136の商店街を持つ福岡市は、商店街の規模や形態に応じて効果的な支援策を実施していました。若手人材の育成にも注力しており、様々な施策を通して商店街全体の成長を促す取り組みを伺うことが出来ました。

3日目は福岡県太宰府市の観光施策を視察しました。

太宰府市では、観光客の滞在時間と消費額が少ない課題を解決するため、体験型観光やナイトタイムエコノミーを取り入れ、高い経済効果を目指していました。最盛期には年間1,000万人を超える観光客が訪れており、オーバーツーリズムの問題についても伺うことが出来ました。

今回の行政視察では、人口増加が予測される地区におけるソフトインフラの整備状況を確認することが目的でした。具体的には、人材育成と意見収集の実践的な方法を学ぶために、3か所の地区に焦点を当てました。各地区で実施されている意見収集のメカニズム、革新的な人材育成プログラム、若者や学生のアイデアを促進する取り組み、さらには民間企業との交流による人事制度の進展について詳細に観察しました。これらの取り組みは地域発展に大きく貢献しており、人材育成が街の持続可能な成長に不可欠であることが明らかになりました。この視察を通じて得た洞察は、今後の政策立案において重要な役割を果たすと確信しており、当委員会の行政視察の報告といたします。